# 事務事業評価シート

評価実施年度: 平成28年度

施策 [ -5-3 上位の施策名称 UIターンの促進

1.事務事業の目的・概要	
--------------	--

事務事業担当課長

土木部参事(建築住宅課長) 藤原 博 電話番号 0852-22-5216 しまね定住推進住宅整備支援事業 事務事業の名称 UIターン者、県内に定着・回帰した若者 (1) 対象 日 的 (2) 意図 島根に回帰するUIターン者や親世帯から独立する子育て世帯等を対象とした賃貸住宅を整備することにより定住の促進を図る。 良質な定住者向け住宅の整備等を行う市町村に対して経費の一部を助成 ①新築による住宅整備 …助成率1/5 限度額3,500千円/戸(離島は4,000千円) 事

②空き家の改修による住宅整備 …助成率1/2 限度額3,500千円/戸 (離島は4,000千円)

④空き家バンク適正管理事業 …委託助成 助成率1/2 限度額60千円/件

## 2.成果参考指標

概

成果参考指標名等			年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
	指標名	票名 住宅への入居者数	目標値		70.0	160.0	270.0	400.0	
1			取組目標値						人
'	式•	事業対象住宅への入居者、及び入居後に誕生した子供の合計	実績値	0.0					
	定義	争耒刈家住七八の人店有、及び人店復に誕生したす供の口司	達成率	_	_	_	_	_	%
	指標名		目標値						
2		取組目標値							
_	式•		実績値						
	定義		達成率	_	_	_	_	_	%

### 3重業費

<u></u>								
	前年度実績	今年度計画						
事業費(b)(千	円)	125,400						
うち一般財源	(千円)	72,530						

#### 4. 改善策の実施状況

	前年度の課題を踏まえた 改善策の実施状況	⑤今年度新規
--	-------------------------	--------

### 5.評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

従前の事業では、新築により平成15~27年に375戸、空き家改修により平成9~27年に160戸、合計535戸の住宅整備を行った。 入居者要件は市町村が独自に設定しているが、特に新築では年齢の上限を設定して子育て世帯を誘導することにより、世帯当たりの子供の数が入居から3年経過し

1. 2人程度となっている。 空き家改修事業では高齢者のUIターン者も受け入れているため、世帯当たりの子供数は3年経過した時点で0. 47人程度に留まっている。

# 6.成果があったこと (改善されたこと)

平成24~26年の3年間に従前事業である 定住者向け住宅の整備により、県外から 119

人のUIターン者を受け入れた。

#### 7.まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか) ①困っている「状況」

中山間地域での人口減少が続いている。

高齢者の死亡が主因である自然減は止むを得ないと思われるが、出生による自然増が非常に少ない。 また高校卒業者の県外流出による社会減が非常に大きく、その流出者があまりUターンして来ない。 加えて職場の近くの市街地へ中山間地域の若年者が流出するケースが多い。

### ②困っている状況が発生している「原因」

自然増が生じない原因は、中山間地域で子育て世帯が減少していることと考えられる。 社会減の要因は、就職先や就学先が近くにないことが考えられる。 また、社会増につながるUIターンが増えない原因は、希望通りの就業先がないことや住環境に魅力が ないことが考えられる。

### ③原因を解消するための「課題」

県外からの | ターン希望者は複数の候補地を比較していることから、より魅力的な住環境とすること

必要と考えられる。 県内に住んでいる子育て世帯を県外に流出させないための工夫が必要と考えられる。

#### 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方) 8

|ターン者希望者に対しては、住宅自体の性能だけでなく、住環境や利便性などに配慮した住宅の整備を行う。 県内に定着している若年者に対しては、結婚や就職などの生活が変わる局面でも可能な限りその地域に住み続けてもらえるような良質で安価な住宅の供給を行う。 その中でも特に自然増に繋がる子供の出生が期待出来る若年世帯への支援を重点的に行う。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効 率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてくださ

### 9. 追加評価(任意記載)